

公開講座

「空中写真・ドローン(画像)を立体視する(第2回)」

ーオルソではなく中心投影画像が重要ー

今後も進む少子高齢化に向け、山や森林の管理で、このような課題をお持ちではありませんか。

- ①現地を何時でも、何度でもしっかり把握したい。
- ②図面との違いを明確に知りたい。
- ③関係者の方々と一緒に、室内で確認したい。
- ④過去の土地利用履歴を映像で忠実に確認したい。
- ⑤現地測量の労力や時間を極力抑えたい。
- ⑥将来まで活かせる管理方法にしていきたい。など。

これらの事柄を満たし、かつ最も簡単な方法で、最高の精度を持ちつつ安価な方式、それが「空中写真を立体視利用」することです。

空中写真を用いた測量手法はすでに完成したのですが、90年代からの電子技術の高度化で、撮影方法や使用機材が大きく進展し、より高精度、高効率になり、立体視も容易にできるようになりました。そのことで、写真の持つ情報を余すところなく最大限に生かすことができるようになったのです。しかし、その有効性は十分に認知されていません。

第1回(1/18)では、立体視の仕組みについて解説しましたが、第2回では、オルソの注意点、時系列写真による境界確定、GISとの組み合わせについて紹介します。

4K大型テレビを複数台使い、空中写真やドローン画像の迫力ある立体視を見ていただきます。

■ 日時 2019年7月12日(金) 16:00～17:30

※講演：16:00～17:00／質疑応答：17:00～17:30

■ 会場 (公社)日本測量協会 研修室(文京区白山1-33-18 白山NTビル5階)

■ 講師 中北 理 氏

(元国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 研究専門員)

- 参加費 無料
- CPDポイント 測量CPD1ポイント
- 定員30名
- 申込み方法

[こちらをクリックして、受付システムによりお申込みください](#)

申込み〆切日 7月4日(木)

(定員になり次第締め切らせていただきます)

お問い合わせ メール：open-1c@jsurvey.jp

Tel：03-5684-3357 (担当：遠藤 拓郎)